

## 令和3年度第1回 京都市市民参加推進フォーラム 摘録

■開催日時：令和3年6月18日（金） 午後1時～午後3時

■開催場所：職員会館かもがわ3階 第1・第2多目的室

■議題：

- （1）市民参加推進フォーラムの令和3年度の取組について
- （2）市民公募委員サロンの開催について
- （3）その他

■報告事項：

- （1）新たに設置された附属機関等について
- （2）市民参加に関係する新しい事業や取組について

■公開・非公開の別：公開

■出席者：市民参加推進フォーラム委員15名

（荒木委員，乾委員，内田委員，金田委員，森実委員，木村委員，篠原委員，  
嶋倉委員，菅谷委員，岩崎委員，安委員，森川委員，村田委員，並木委員，  
角田委員）

■傍聴者：3名

■特記事項：

動画共有サイトYouTube（ユーチューブ）を利用し，後日，音声配信を実施する。  
Zoomを用いたWeb会議と併用開催した。

【議事内容】

### 1 開会

### 2 委員紹介・副座長指名

<事務局>

議事に先立ち，皆様に自己紹介をお願いしたい。

（以下，委員及び事務局自己紹介 略）

副座長を務めていただいていた壬生委員が抜けられたので，副座長の指名に移る。市民参加推進条例施行規則第9条第2項により，副座長は委員のうちから座長が指名すること

となっているため、内田座長に副座長の指名をお願いする。

<内田座長>

これまでから幅広い視点からの確な発言で会議をリードいただいている乾委員に副座長をお願いしたい。

<乾委員>

承知した。

<内田座長>

昨年度は、計画を作成するため議論してきた。今年度は、計画をどのように進めていくか議論していく。新しい委員の方も積極的にご意見いただきたい。傍聴の方には、フォーラム終了後に感想をいただきたい。

<事務局>

(議題の説明, 資料確認, 時間配分について説明)

### 3 議題

#### 議題(1) 市民参加推進フォーラムの令和3年度の取組について

<内田座長>

それでは、早速、議題1「市民参加推進フォーラムの令和2年度の取組について」に入りたいと思う。まず、事務局から資料の説明をお願いする。

<事務局>

(資料1「第3期京都市市民参加推進計画の推進に関する成果や課題等の分析について」説明)

<内田座長>

それでは、ご意見・ご質問等いただきたい。

分析の方法としては、事務局の説明にもあったが、2通りある。

1つは、昨年度までと同様に、計画に基づき取組む施策について事務局から説明があり、フォーラムで評価していく。

また、今年度からは新しい評価方法も検討していかなければならない。

まずは、この分析の2つの方法について、率直な質問から出していただきたい。

<荒木委員>

どの年度にどの項目を分析するのかというスケジュール案は厳密に決まっているものか。

<事務局>

大きな流れを示しているものである。

<荒木委員>

最終年度に分析のすべてが揃うという部分が、行政っぽいと感じてしまう。フォーラム委員は、非営利のセクター等で活躍する人も多いため、直近に実施したものを順次分析できる方が理想ではないか。

<内田座長>

フォーラムの議論の様子を見て、柔軟に進めていきたい。

<岩崎委員>

「市民力」の指標のイメージがわからない。どのようなものを考えればよいか。

<事務局>

後ほどの議論の中で詳しくご説明させていただく。

<森川副座長>

荒木委員のおっしゃる通り、取組は年度ごとに進むものではなく、同時並行で進んでいく。分析・評価のスケジュールは、あくまでも記載の年度にその施策を中心に進めるという意味か。

<事務局>

その通りである。

<森川副座長>

コロナの状況下で、分析するための情報収集等が困難にならないか。

<事務局>

たしかに、コロナの影響でダメージを受けている状況である。今年度は、より地域に近い区役所を回って、地域の状況の変化をヒアリングしていきたい。

<内田座長>

いきなり分析の話をするのは難しいが、例えば、資料7にある通り、京都市の新しい取組の報告内容からも計画の進捗をはかることができる。そのような視点も持って、資料を  
ご覧いただきたい。

それでは、続いて資料2の説明を事務局にお願いします。

<事務局>

(資料2「令和3年度フォーラム活動予定」、資料3「市民参加の裾野拡大部会の進め方(案)」, 資料4「市民力指標検討部会の進め方(案)」報告)

<内田座長>

今年度の取組み方について、フォーラム会議が年4回とフォーラム主催の市民公募委員サロンの年2回ある。その中でも、今年度は計画の進捗のはかり方が大きな議題である。事務局から2つの部会に分かれて議論する提案があったが、部会の分け方や議論の内容等についてご意見をいただきたい。

<岩崎委員>

「市民力」の「市民」の指すものや目指すものが分からない。

<内田座長>

このような言葉の定義や考え方について今後も議論を進めていきたい。

<荒木委員>

資料4に記載されている、「ペルソナ」という言葉はどのような背景で使われているのか。

<事務局>

京都市には、様々な主体が存在するが、抽象的な議論にならにように、具体的な主体のイメージを持って議論できるように使用した。

<荒木委員>

抽象論にならないようにという目的で使われているのであれば納得である。

<乾副座長>

そもそも「市民力」という言葉を指標に使うかという視点から議論したい。より有意義な指標としたい。

<森実委員>

本フォーラムは抽象的で横文字が多く、幅広い市民への参加を求めている中で、非常にわかりにくい。財政難等で市民も敬老乗車証や保育料等、身近な市民サービスに興味を持ち、市政への関心が高まっている状態だと考えられるので、より具体的でわかりやすい議論をしていくべきだ。

保育所の民営化等の具体的な話は、実際に市民の意見が反映されているのか。

<内田座長>

今期の計画では、伝えたい相手に必要な情報を伝えるという施策もあるので、伝わるための工夫が必要になるだろう。

「市民力」というと、市民側だけを評価するように聞こえるかもしれない。市民からの意見を行政がどのように受け止めて、施策に反映していくのか、という行政側を評価するという視点で「市民参加推進力」ということもできるのでは。

<木村委員>

指標の具体化が今後の課題であると認識した。大事なことだと考えている。

昨年度の議論としては、計画に掲げる3つの「重視する視点」の中に「裾野拡大」があった。その1つだけを部会で取り上げるのは、他の2つの「重視する視点」に対する議論が途切れてしまわないか。

<事務局>

まずは裾野拡大から重点的に進めたいと考えて提案させていただいている。他の2つの重視する視点についても議論していただいて問題ない。

<乾副座長>

年度ごとに1つずつ進めるか、毎年度3つの視点を進めるかということは、部会に入る前に議論していきたい。

<木村委員>

資料1では、「重視する視点」は毎年度すべてにチェックがついており、これを全面的に議論していくほうが分かりやすいとは思いますが、さらに各視点の項目を深めて議論していくのも良い。

<乾副座長>

限られた委員の中で、1年で3つの視点を同時に進めるのは大変かもしれない。

<事務局>

補足させていただく。庁内では、3つの「重視する視点」すべてを意識して取組みを行っている。また、庁内での年度ごとの進捗管理を照会するものも同様の構成で作成している。5年間の進捗管理の中で、年度ごとに注力する項目を決めるが、他の項目についても議論していただいて問題ないと考えている。

<乾副座長>

今回の部会は、裾野拡大を分析・提言する議論なのか、裾野拡大の取組を推進していく実践的な内容も含むのか。

<事務局>

実験的な取組の実践も含めて進めていただきたい。

<村田委員>

新しく委員に入ったので、計画について2つ質問したい。

まず、3つの「重視する視点」の簡単な表現として、「はじめる・つながる・ひろがる」という言葉を使用しているのか。

また、部会は、必ず年度ごとに完結するものか、年度末に次年度の進め方を議論して継続していくものなのか。

計画冊子について、幅広い市民に伝え、読んでもらうためには、やさしい日本語等でより伝わりやすくする必要がある。

<事務局>

3つの「重視する視点」と「はじめる・つながる・ひろがる」は連動した表現ではない。

部会は、年度を越えて議論することも可能であり、柔軟に進めていきたい。

また、計画の記載の表現についても気を付けていく。

<乾副座長>

自分の解釈では、「市民参加」という言葉は、市民の市政参加とまちづくりの両方にかかっているのではないかと思っている。ただし、それでは内容が幅広いため、今年度の進め方としては、大学生の市政参加（団体自治）の面と、コロナでダメージを受けている地域のまちづくりの議論をすると認識した。

<並木委員>

指標部会に興味がある。本日の資料では、団体自治・住民自治のどちらを測る指標か整

理されていない。「市政参加」というのは手段であり、どのような目的で、行政の課題がどの程度改善されているのかという部分の評価をすることは可能か。或いは計画に対するパフォーマンスの評価をするのか。

<事務局>

これまでの評価は、後者に近かった。今後は、市民参加による行政課題の改善度等も目に見える形にしたい。

<並木委員>

森実委員の話に出ていたが、幼稚園や保育園が閉園してしまうという場合、これまでは財政的な指標でしか見てこなかったが、新たな指標として、アンケートで地域への貢献度等を出すことができれば、今までと違った判断材料にならないか。

<乾副座長>

逆に、学生の場合は行動してから気づくということもあると思う。目的が先行するのではなく、学生の行動に後から意味づけすることも必要であると思う。

<内田座長>

たくさんのご意見をありがとうございます。

「市民の方の実感」という視点も大切に、部会での議論も進めていただきたい。

<嶋倉委員>

学生が市政参加しない理由は、「時間がない」だった。学生は、市政参加をすごく時間がかかるものだと思っているから、この回答が多いのだと思う。

昨年度の議論にもあった通り、学生が気づいたら参加しているということがあれば、時間がないという言い訳はできないと思う。

<岩崎委員>

そもそも「市政参加」とは何をしている時間なのか。行動していたら、市民参加になっていたというのが目指すゴールで良いのか。

<金田委員>

部会は、今年度だけでは一気に議論しきれない。ポイントを絞って、できるところから進めていく必要があると思う。また、部会の内容次年度以降と連動し、反映されていくものである。

市民の思いや気運は、目に見えにくいものである。それを評価するのはチャレンジング

ではあるが、その指標を一度作ってみて、ブラッシュアップしていけば良いと思う。

<安委員>

計画はとても立派だが、誰が内容を読むのだろうかと感じた。これをしっかりと分析していくのが大事だと感じた。

また、「市民力」という言葉には違和感や押しつけ感があるが、指標を作り、具体化していくのはわかりやすいと思う。

若者とは、どこまでの世代を指しているのか。資料では大学生がメインになっているが、子育て世代等、京都に根付いていく世代も含めるか、もしくは大学生のみに絞るかを明確にしたほうが議論しやすいと思う。

保育所等の具体的な話題は、市民がより発言しやすく、それを責められない雰囲気が必要だと感じている。部会では、そのような部分も検討したい。

<内田座長>

重視する視点にも、対話の推進がある。市民の発言が受け入れられるという機会を増やすことがポイントになってくると思う。

<森川副座長>

実務的な話になるが、やはりすべての項目の分析を並行して進めるのは無理があるので、年度ごとに分けるのは納得である。今年度の議論のテーマは、そもそも論からスタートするので、かなり時間がかかると思っており、最終的な提言に着地するか不安である。

事務局としては、どのように議論を深めようと考えているのか。

<事務局>

部会に時間をかけすぎない工夫が必要だと考えている。フォーラムの前段で、事務局側でも準備を進める。

また、本日の1時間だけでも、内容の濃い議論をしていただいております。可能性を感じている。フォーラム委員による自主勉強会以外にも、事務局側で実施する取組や調査等に委員の方のご希望があれば、ご参加いただくことも可能である。

## 議題 (2) 市民公募委員サロンの開催について

<内田座長>

事務局から資料の説明をお願いします。

<事務局>

(資料5「令和3年度市民公募委員サロンについて」説明)

<内田座長>

フォーラム主催で、京都市の附属機関等に参加されているすべての市民公募委員を対象に、実施するものである。何かご質問等あるか。

<乾副座長>

今年度も8～9月頃に実施するのであれば、第2回フォーラムの直前になる。意見は今回の会議でしか取りまとめができないので、市民公募委員の方を中心にご意見を共有していただきたい。

<岩崎委員>

昨年度の市民公募委員サロンに参加していた。昨年度は、別の審議会の市民公募委員をしていたが、1つの発言をするにも緊張するような雰囲気だった。サロンはそのような不安を取り除く役割になって良いと思う。

<木村委員>

昨年度は参加者が11名程度で、全体の市民公募委員（100名以上）に対して少ないと感じる。今年度は、会場を広く設定して、より多くの方に参加してもらいたい。

<内田座長>

例年25名程度の参加者である。何か参加者を増やす工夫はあるか。

<岩崎委員>

交流会的なものに参加するのは心理的ハードルが高いが、何かしらの思いを持って市民公募委員をされている方が多いと思う。これらの方に響くようなテーマ設定が必要である。

<事務局>

市民公募委員サロン当日のファシリテーターを決めておきたい。

<内田座長>

どなたかお願いできるか。

<岩崎委員>

立候補する。

<内田座長>

では、岩崎委員にお願いします。また、昨年度までの経験を活かして、篠原委員にサポー

トをお願いしたい。

<篠原委員>

承知した。

<内田座長>

それでは、事務局側で会場の準備等をお願いする。

#### 4 報告事項

##### 報告事項（１）

<事務局>

（資料６「新たに設置された附属機関等に係る協議結果（一覧）」報告）

##### 報告事項（２）

<事務局>

（資料７「市民参加に係る新しい事業や取組」報告）

<内田座長>

資料６・７は、市政参加の取組みが適切に進められているかを確認するものである。

何かご質問・ご意見はあるか。

<乾副座長>

公募型プロポーザルの附属機関等であれば、受託者の選定プロセスを見ていくという意味では、市民公募委員に公開されても良いのではないか。

<森実委員>

市民公募委員数名だけではなく、多くの市民が知り、参加する機会が必要である。

ただ、このような選定委員会は膨大な数があるため、すべては難しいが、市民の多くが関わる施設等の重要な選定について、知る機会が増えることは良いことだと思う。

<内田座長>

まだご発言のない委員の方からも、ぜひご意見をいただきたい。

<菅谷委員>

地域も持続可能に発展していくため、試行錯誤している。地域の課題は時期によって移り変わっていくもので、ひとつひとつ解決に向けて持続可能な形で取組みたい。

<篠原委員>

部会の前の話にも大変興味があり、議論していきたい。

<角田委員>

いかに具体的なテーマに絞って、市民の関心のある市政の取組みを周知していくかが課題である。資料7を見ると、こんなに多くの取り組みがあったのかと驚く。発信方法も重要だと思う。

<内田座長>

以上で本日の議題、報告事項は終了となる。皆さん、どうもありがとうございました。最後に傍聴の方も感想をお願いします。

<傍聴者1>

市民参加の裾野拡大について、市民がどうしていくかという問題もあるが、逆に行政職員側の情報把握という面も含めて議論してもらいたい。

<傍聴者2>

市民公募に応募していた。子どもを産んだ人が地域で孤立するのを防ぐ活動をしていた。現在は大学生の孤立を防ぐ活動をしている。大学生もインターン等に参加しているし、発言できる機会を設けるのが重要だと思った。

<傍聴者3>

生活者の1人として、身近なところから市政に関わっていくものだと思う。様々な立場の方が、安心して意見を言うことができ、それを汲み取る仕組みが必要だと思った。

## 5 閉会

<事務局>

活発にご意見を頂戴した。ご意見を真摯に受け止め、次回以降のフォーラムにも活かしていきたい。限られた時間の中でのフォーラムであるため、ぜひ、委員の皆様同士で自主的に意見交換をしていただき、全体にも共有をお願いしたい。

以上